

- 1 汲んできてゆたかにこぼす春の水
- 2 猫の恋ことば通じぬこと樂し
- 3 ゴヤ展の帰り道にて買う目刺し
- 4 如月や牛乳パックの堅き口
- 5 薄氷に記号のような小枝透く
- 6 山笑うラ・ロシユフコー箴言集
- 7 春風に触れて他人の手となりぬ
- 8 ねと言つてやわらかなこと雲に鳥
- 9 春の雨ふろしき屋にてやり過ごす
- 10 退屈がひたひた寄せてきて卯月
- 11 引き抜かれ忘れられたる野蒜かな
- 12 踏み切りの押し上げている花曇
- 13 錆びてゆくものの味して花の雨
- 14 春愁い耳のかたちの貝に似る
- 15 人形に嘘のまばたき春深し
- 16 泣きにゆく非常階段春日さす
- 17 エイプリフル知らないことばかり
- 18 帽子屋の棚に春の闇しまう
- 19 行く春や河を挟んで人と犬
- 20 卵割る心地立夏の靴を履く
- 21 全身でつぶす段ボール箱立夏
- 22 エスプレッソマシン鎮座す麦の秋
- 23 落しても割れない心五月来る
- 24 青蛙こどもは水滴のように
- 25 太宰忌や脳むずがゆき哲学書
- 26 鉄錆びて山河の色となる六月
- 27 緑蔭や仮面の穴のおそろしき
- 28 夕刻の鳥騒がしき薄暑かな
- 29 お話に囲まれている合歓の花
- 30 橋越しに橋を見ている梅雨晴れ間
- 31 青梅を拾う誰かの家の跡
- 32 波の下も波でありけり夏兆す
- 33 水中に皿すべらせて七月よ
- 34 男来る喉仏まで日焼けして
- 35 花火見を終えて頭痛薬二錠
- 36 雷やゆつくり閉じる自動ドア
- 37 白日傘木材の香の濡れており
- 38 山肌の見えて炎暑の収まらぬ
- 39 夏空を蹴つて逆上がり成功
- 40 鉄棒をぐるり大暑をかき混ぜる
- 41 文月や魚のまなこの水たまり
- 42 星涼し足を小さくしておりぬ
- 43 甘酒や姉を叱れば泣く妹
- 44 日曜のパジャマの軽さ夏の草
- 45 夏深し象のしっぽが指す地球
- 46 ひとつ目のしゃっくりが出て大西日
- 47 日傘さして話さぬことをもう少し
- 48 秋隣うすべに色の猫の耳
- 49 生きていて西瓜の汁を滴らす
- 50 きはちすやパブロ・ピカソの小さな子

- 75 骨董になりたる本の愁思かな
- 74 秋の夜の櫂を引き寄すたび静か
- 73 半月の底を支えて闇は闇
- 72 冷ややかに異動する日の机かな
- 71 軒先にこおろぎの籠楽器店
- 70 茱萸食みて鳥の時間が欲しいよと
- 69 美術学生の半端なズボン秋の暮
- 68 秋の月ビルの隙間が猫の道
- 67 駆け出してみても淋しい白木槿
- 66 相槌の少し遅れて秋の蝶
- 65 絆創膏一枚もらう花野かな
- 64 六畳が三部屋続いて秋の風
- 63 鶏頭花休んでみたら長い昼
- 62 秋の水掬うもつとも軽いもの
- 61 精巧な君の足首秋の坂
- 60 カンナ咲くたまにマニキュアして愉快
- 59 口紅を選ぶ姉を見る秋うらら
- 58 アーモンド噛み砕いては愁思かな
- 57 風の色カフエの扉が半開き
- 56 丸め持つ岩波文庫檸檬の香
- 55 芋虫や惰眠ゆるやかに苦し
- 54 オムレツに包みこむもの秋の色
- 53 花カンナ生まれる前の朱の記憶
- 52 陸橋の空の間近や渡り鳥
- 51 西鶴忌新製品がどつと出て
- 76 あたたかい手かも秋海棠を指す
- 77 人形の肌の汚れや暮の秋
- 78 短日や抜きし歯の穴さぐりつつ
- 79 爪噛めば貝の味する冬の入
- 80 島生まれの人の笑いや冬紅葉
- 81 冬あたたか動く歩道にはこばれて
- 82 白長須鯨少年少女老ゆ
- 83 山茶花や雨一粒の落つページ
- 84 蔦枯れている帆船のモニュメント
- 85 届かない手紙となつている水鳥
- 86 いつも会う人のコートの長きかな
- 87 ねむたさを大事に帰る冬あたたか
- 88 退屈読本背に大根の煮える音
- 89 泣き顔のふと獣めく霜夜かな
- 90 オリオンの体内抜けてきた風か
- 91 近松忌双子を載せた乳母車
- 92 額縁に生没年のある寒さ
- 93 年の暮ペットショップの猫育つ
- 94 大寒の始まっている靴の中
- 95 暖房や祖母の肌着のピンク色
- 96 寒椿家庭画報の厚さ持つ
- 97 聖母子の良き肉付きや冬深む
- 98 山眠る箆笥に父の通信簿
- 99 全集の隙間一冊分の寒
- 100 冬の雲かすかに甘き口内炎